ロジスティクス環境会議
第４回広報・普及専門委員会

2004 年 9 月 29 日(水)10:00～12:00
(社)日本ロジスティクスシステム協会　会議室

次　　第

１．開　会

２．議　事
　１）シンポジュウムについて
　２）ジャーナルについて
　３）その他

３．閉　会

【配布資料】
資料１　　：シンポジュウム企画（案）
資料２　　：ＣＧＬ　ＪＯＵＮＡＬ　第1号（案）
参考資料１：ＣＧＬ　ＪＯＵＮＡＬ　発行計画
参考資料２：ニュースとジャーナルの基本的な枠組み
参考資料３：第３回広報・普及専門委員会　議事録
参考資料４：各委員会の活動状況一覧

以　上

資料１
2004.9.29

ロジスティクス環境会議
第１回シンポジュウム企画（案）

１．目　的：

１）ロジスティクス環境会議（以下、ＣＧＬ）の検討内容(状況)および検討によって明らかになる課題や成果を広く知らしめる。

２）効果的に環境負荷低減を実現する考え方や環境活動の定量的な把握の重要性、評価尺度等の課題を明らかにし、広く産業界に投げかけることによって、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取組む企業を増やす。

３）民間企業だけでは解決できない課題については、関係各省等に対して投げかけを行う。

２．概　要：

■日　　時：２００４年１２月１７日（金）１３：３０~１７：００

■会　　場：経団連ホール

■参加料金：ＣＧＬメンバー：2,000 円、ＣＧＬメンバー以外：5,000 円

※環境活動に取組む企業を増やすため、ＣＧＬメンバーから取引先、協力会社等の方々へ積極的な参加動員のご協力をお願いいたします。

※ＣＧＬメンバーからご紹介いただいた方は、メンバー料金にて対応させていただきます。

■参加人数：４００名（予定）　※経団連ホール最大収容人数：470 名

■後　　援：経済産業省、国土交通省、環境省、農林水産省（申請予定）

■協　　賛：日本経済新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、ＮＨＫ（申請予定）

３．シンポジュムの骨子（例）

１）製造業、流通業(卸・小売等)の物流・ロジスティクス部門、物流業としてやるべきことはやっているか。

①製造業：無駄な物流（輸送・包装等）を発生させていないか、または要請していないか？
・物流計画を策定する際、環境の視点から評価できる尺度やツールがあるのか？
・荷姿のモジュール化、ユニット化を推進しているか？
・輸送モードの選定や委託先（運送業）の選定などの際に環境面から評価しているか？
・急ぐ製品と急ぐ必要の無い製品の確認（選別）は出来ているか？

②物流業：環境負荷低減に繋がるような物流計画を作成し、荷主企業に提案しているか？

③流通業：無駄な物流（輸送・包装等）を要請していないか？
※特定時間の納品指定が多く、共同化やモーダルシフト等の阻害要因になっている

上記の共通的な問題点⇒ <u>物流諸活動の定量的な把握と評価が出来ない＝「ＰＤＣＡ」の展開が不可能！</u>

・サービス要件、コストに加えて環境のパラメータが無い
・物流を計画する際に環境を考慮した方策、効果が分からない
⇒体系的だったマニュアル等のツールの作成および啓発と普及
・環境活動を評価する共通的な指標や算定方法が分からない
⇒共通的な指標や算定方法の作成および標準化とその啓発・普及
⇒人材の育成(正しい算定方法の把握、環境報告書等への記載など)
・算定するための時間、工数(人手)がかかる
⇒ＥＤＩやＲＦＩＤ等のツールの整備（自動化）
⇒行政から支援(助成)策の提示

２）企業間にわたる課題：荷主企業、荷受企業、物流企業の間でより積極的に調整できることはないか？
例：納品時間の調整⇒共同化、モーダルシフトの阻害要因の打開策

４．シンポジュウムのタイトル（案）

Ａ案：グリーンロジスティクスへの挑戦
　　－個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる－

Ｂ案：環境と調和したロジスティクスの実現へ向けて
　　－個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる－

Ｃ案：継続的な環境活動とコスト低減に向けて
　　－個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる－

５．プログラム構成（案）：

13:30~13:35 （5 分）	開　会　　「主催者挨拶」　　杉山　武彦　氏 ロジスティクス環境会議　企画運営委員会　委員長／一橋大学　副学長
13:35~14:20 （45 分）	基調講演：「環境対応と経営革新」先進企業の経営トップ層 候補：キヤノン㈱　、富士ゼロックス㈱、日本アイ・ビー・エム㈱、住友スリーエム㈱
14:20~14:50 （30 分）	「ロジスティクス分野における環境負荷削減に向けた展開と課題」 ～環境パフォーマンスの測定、評価の視点から～ 増井　忠幸　氏 ロジスティクス環境会議　環境パフォーマンス評価手法検討委員会　委員長 武蔵工業大学　環境情報学科 教授
14:50~15:10	休　憩
15:10~16:40 （90 分）	【パネルディスカッション】 「製造業・流通業・物流業の連携による環境負荷削減に向けた現状と課題」 ・各企業および企業間にわたる課題（源流管理、共同物流、モーダルシフト、リバース等） ・環境活動の評価尺度と評価 ■司会進行：増井　忠幸氏（武蔵工業大学） ■パネラーＡ案：広報・普及専門委員会メンバーを中心に構成 ※荷主企業、物流企業、物流子会社等３名程度 パネラーＢ案：各委員会委員長メンバーを中心に構成 ※源流管理、省資源、リバース
16:40~17:00 （20 分）	「ロジスティクス環境会議の活動紹介」 ロジスティクス環境会議　広報・普及専門委員会　副委員長
	閉　会

６．スケジュール（案）

		10月			11月			12月	
	9月	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
広報・普及専門委員会	■第4回					■第５回		■第６回	
１．シンポジュム開催									■12/17(金)
２．パンフレット作成	→	→	→						
３．ＤＭ送付				→					
※ＣＧＬメンバーはメール送信									
４．パネリスト打合せ						↔			
５．テキスト作成						→	→	→	
６．後援、協賛申請					→				
７．その他									

以　上

資料２
2004.9.29

ＣＧＬ　ＪＯＵＨＮＡＬ　ＶＯＬ．１

ロジスティクス環境会議：Conference on Green Logistics in Japan

１．地球温暖化対策推進大綱、見直しへ

地球温暖化対策推進大綱は、我が国における京都議定書の約束（1990 年比▲６％削減）を履行するための具体的裏付けのある対策の全体像を明らかにするものであり、政府を挙げて 100 種類を超える個々の対策・施策のパッケージをとりまとめたものである。

地球温暖化対策推進法に規定する京都議定書目標達成計画は、新大綱を基礎として策定することとしている温暖化対策への取り組みが経済活性化や雇用創出などにもつながるよう、技術革新や経済界の創意工夫を活かし、環境と経済の両立に資するような仕組みの整備・構築を図るものであるが、節目ごとに対策の進捗状況について、評価、見直しを行い、段階的に必要な対策を講じていく、「ステップ・バイ・ステップのアプローチ」がとられることになっている。そして２００４年はその節目の年に当たり、その見直しが検討されている。例えば、国内温室効果ガスの排出削減については、①エネルギー起源ＣＯ２、②代替フロン等３ガス対策、③革新的技術開発について見直しの審議が行われている

我が国における２００２年度の温室効果ガス総排出量は１３億３１００万トンで京都議定書の基準年（１９９０年）に比べると、7.6%増となっている。京都議定書の削減約束を達成することは容易ではない。

こうした厳しい状況を受けて、安定供給の確保、環境への適合、市場原理の活用を３つの基本方針としてエネルギー環境政策の再構築と「環境と経済の両立」を図る必要性が指摘されている。また民生・運輸部門についても引き続き、省エネ製品の開発・普及や省エネルギーに関する情報・サービスの提供などを通じて排出削減に貢献していく必要がある。

さらにいえば、中長期的視点に立った温暖化防止技術の開発・導入を推進し、京都議定書の問題点なども踏まえ、地球規模で実効性のある新しい枠組みを積極的に提案していく時期も来ている。

２．委員会の活動状況

環境パフォーマンス評価検討委員会、源流管理委員会、省資源ロジスティクス推進委員会、リバースロジスティクス調査委員会、　共通基盤委員会のそれぞれの委員会が活動を開始している。各委員会の活動の詳細は以下の通りである。

全体総括

環境パフォーマンス評価検討委員会の取り組み

委員長：武蔵工業大学　環境情報学部教授　増井忠幸

副委員長：鹿島建設ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ本部 生産･物流ｸﾞﾙｰﾌﾟ 課長　小林だいご

三菱電機（株）ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ部 企画ｸﾞﾙｰﾌﾟ 専任　飯島　康司

「環境パフォーマンス評価委員会」は、ロジスティクス業務における環境問題への取組活動について定量的評価を可能にすることをねらいとして設立された。企業の環境活動を評価するために、環境負荷指標の体系化を図り、その標準を整備し、さらにこれを実施するための環境負荷測定方法やデータ採取方法・算定方法を標準化し、マニュアルを策定することを狙いとする。環境パフォーマンスの「標準的な算定方法の明示」と、できるだけ「容易な算定方法」が本委員会のミッションとなっている。

本委員会は環境会議のメンバーのうち環境パフォーマンス評価に興味がある３２社で構成されている。議論を重ねていく際に、環境への取組に関する意識が企業によって大きく異なることや、本委員会への参画の狙いが企業によってかなり異なっていることが明らかになってきた。そこで本委員会の位置づけや LEMS の活動内容を認識することや環境調和型ロジスティクスシステムの調査分析活動の現状を認識することによって、ロジスティクスにおける環境問題についての共通認識を得ることから委員会の活動を始めることとなった。

そしてパフォーマンスの具体的算定方法の検討は LEMS に委託し、本委員会は、その方法の具体的実施可能性について主に検討し LEMS にフィードバックし、よりよいものにし、普及に貢献するといろ立場に立つことを確認した。その上で、環境問題に関する取組状況について委員会のメンバー企業に調査を実施し、荷主企業と物流企業の分科会に分けて検討を進めている。

源流管理による環境改善委員会の取り組み

委員長：愛知陸運常務取締役　小西　俊次

副委員長：早稲田大学環境総合研究ｾﾝﾀｰ 助教授　納富　信

循環型社会に対応する企業の社会的責任(自らが環境負荷の源流となっている)として、また、ロジスティクスの視点から、荷主企業の物流・ロジスティクス部門、物流企業として環境負荷を低減する方策を整備し、その内容をマニュアル形式にまとめ、広く公開し、関係者の環境活動を支援することを活動方針としている。

また複数企業間におよぶ製品プロセスを最適化するロジスティクスの視点から環境負荷を低減するため、製品プロセスの企画・設計段階から再資源化までを当委員会の検討の枠組みの範囲としている。

そして、荷主企業(製造業、流通業等)の物流・ロジスティクス部門や物流企業等の関係者が中心である当委員会メンバーの構成を考慮し、当委員会では、物流が直接的に影響する部分（テーマ）に焦点をあてた活動を行っている。

省資源ロジスティクス推進委員会の取り組み

委員長：　日通総合研究所物流技術環境部 環境ｸﾞﾙｰﾌﾟ 担当部長　山本　明弘

副委員長：味の素調味料･食品ｶﾝﾊﾟﾆｰ ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ戦略本部 物流企画部 企画ｸﾞﾙｰﾌﾟ長　魚住　和宏

日立物流ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽｿﾘｭｰｼｮﾝ統括本部 ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ開発本部 ﾘｻｲｸﾙｼｽﾃﾑ部 部長　軽部　熊次郎

省資源ロジスティクス推進委員会は、ロジスティクス環境会議が目指している「循環型社会を実現するロジスティクスの構築」の実現に向けた５つの課題のうち、調達→生産→販売までの複数企業間、業際間を主体とする流通部分を対象に省資源ロジスティクス活動を行っている。

ロジスティクス活動では、化石燃料、木材、紙などの天然資源が使用されており、その量は極めて膨大な量に及んでいる。省資源・省エネルギーの視点から物流の環境負荷を低減するため、共同物流、モーダルシフト、省資源包装等の活動を促進することが必要である。こうした背景のもと当

委員会では、①省資源・省エネルギーの視点から物流の環境負荷を低減するために、モーダルシフトや共同物流等の活動促進を図る、②サプライチェーンを構成する製造業・流通業・物流等が一体となって、活動の阻害要因の解消を目指し、関係者に対する提案を行うことによって省資源・省エネルギーを促進する、③各活動の事例収集を行い、関係者間の情報交換と公開を行う、ことを活動方針に掲げている。

リバースロジスティクス調査委員会の取り組み

委員長：リコーロジスティクス経営管理本部 副本部長　菅田　勝
副委員長：日本通運環境部 環境施策専任部長　麦田　耕治
富士通 ものづくり推進本部 物流企画部 計画部長　佐柄木　宏和

当委員会では、ロジスティクスの視点から今後本格的に必要とされるリユース・リサイクルに関わる物流のあるべき姿を描く為に調査活動を行い、その結果を公開することを目指す。同時に消費者における還流管理の促進を含め、リバースロジスティクスの構築が可能となる環境整備を促進するためのガイドラインをまとめ、関係者に提言を行う。

テーマ毎の現状を調査把握し、将来のあるべき循環型ビジネスモデルの姿を論じ、このあるべき姿を実現していく上での障害課題を抽出して、これらをどうやって克服すれば良いか、ロジスティクス視点の解決策は何か、今後どのようなことに注意して進めたら良いか、行政・社会・学会あるいは産業界に対する提言は何か、といったことを詳細に検証していく。そのために産業別の分科会を設け、調査活動を進めている。

共通基盤整備委員会の取組み

委員長：　諏訪東京理科大学経営情報学科教授　津久井英喜
東芝物流物流技術部長附 品質･環境管理部　堀口　英雄
日本総合研究所研究事業本部 上席主任研究員　下村　博史

共通基盤委員会では、環境関連の物流用語について用語集作成を視野に入れてインターネットを活用した用語の選定・定義付けシステムの構築に当たっている。

また、環境調和型物流に関連するホームページのリンク集の作成にも当たっている。しかるべき時期にＪＩＬＳの Web サイトへの掲載することを目指している。環境関連法規の枠組みについても、作成し、Web サイトへの掲載を目指し、現在、作業が進行中である。

また、環境会議の全メンバーに対するアンケート調査により、環境活動を促進している企業に対する表彰制度の要望、あるいは行政に対する要望などのニーズ調査を行う方向である。さらにイベントとして中国の環境事情やリサイクル法、CO2 削減に向けての課題などについての意見交換、講演などの企画も予定している。

Web 上における環境関連の物流用語検討用掲示板について

基盤委員会が中心となって環境関連の物流用語検討用掲示板が開設された。

検討メンバーのみの公開を原則にセキュリティ認証をかけ、所定のユーザー名とパスワードを入力後、閲覧できるようになっている。

なお、Web 上の掲示板は JILS ホームページのサブドメインの中に組み込まれるかたちで構築する予定である。

すでに２５０以上の用語が選定され、定義付けのための議論が開始されている。さまざまな環境関連の物流用語を自由に修正、議論を行うことが可能となっている。　各用語の定義は、用語タイトル作成者のたたき台を二人目以降の発言者が修正、改正するなかで仕上げていくというオープンリソース手法が採用されている。特に定義を決定する責任者、担当者を設けることなく、自発的、かつ自由に掲示板の中で発言し、用語の意味内容を決定していくマルチリーダーシップが基本とされている。

各用語についての意見などは掲示板の所定のフォームに従うかたちで行うことができる。なお前

発言者の定義は「貼り付け」で最新発言者が紹介しながら修正することも、全く別途に新しい定義を作成しても構わない。ただし発言記録は常に残るので以降の発言者、閲覧者にもその更新の過程は詳細に把握できることになる。

今後、当掲示板を日本物流学会の協力も得ながら、活用し、環境関連の物流用語の選定や緻密な定義付けを推進していく。

掲示板のホームページアドレスは、(http://www.sugito.com/cgi-bin/cbbs/cbbs.cgi) 。

■企画・編集／ロジスティクス環境会議　広報・普及専門委員会

委員長　　愛知陸運(株) 常務取締役　小西　俊次
副委員長　(株)ヤマタネ　情報営業部 課長　黒坂　真一
〃　　新日本製鐵(株) 営業総括部 ﾏﾈｼﾞｬｰ (物流技術)　河野　義信
委　員　　いすゞ自動車(株)　法人営業部 営業第二担当部 部長　竹原　郁
〃　　(株)イトーヨーカ堂　生鮮ｾﾝﾀｰ部 ﾏﾈｼﾞｬｰ　田原　新一郎
〃　　ＮＥＣロジスティクス(株)　CS 推進部 環境管理室長　真鍋　大輔
〃　　日本ロジテム(株)　執行役員 業務部長　宮村　隆二
〃　　(株)菱食　ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ本部 ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ統括部 ﾛｼﾞｽﾃｨｸｽ･ｺﾝﾄﾛｰﾙﾁｰﾑ 主事　野村 久則

参考資料1
2004.9.29

CGL JOUNAL 発行計画（予定）

発行号	委員会活動状況	テーマ2	用語解説	備考
第1号 2004年9月下旬	『委員会活動状況』の詳細版 ※各委員会の正副委員長	行政動向 ※地球温暖化対策推進大綱の見直し	共通基盤整備委員会による検討	
第2号 2005年1月下旬	『委員会活動状況』の詳細版 ※各委員会の正副委員長	業界団体動向 ※主な業界団体の活動状況	共通基盤整備委員会による検討	
第3号 2005年4月下旬	第3回本会議	国際動向 ※CO_2排出権取引をめぐる日米欧の動向	共通基盤整備委員会による検討	
第4号 2005年8月下旬	『委員会活動状況』の詳細版 ※各委員会の正副委員長	行政動向 ※地球温暖化対策推進大綱 見直し後のフォロー 又は、新物流施策大綱の見直し	共通基盤整備委員会による検討	
第5号 2005年1月下旬	『委員会活動状況』の詳細版 ※各委員会の正副委員長	業界団体動向 ※主な業界団体の活動状況	共通基盤整備委員会による検討	
第6号（最終） 2006年3月	第4回本会議	トップ対談 議長、副議長、行政		

参考資料２
2004.9.29

ニュースとジャーナルの基本的な枠組み

【ニュースとジャーナルの発行の基本的な考え方】

・ニュースとジャーナルは、ＣＧＬメンバーを主な対象として、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取組む企業を増やすための情報提供を行う。

・企画及び編集については、広報・普及専門委員会にて行う。

分　類	ニュース	ジャーナル
名　称	ＣＧＬ　ＮＥＷＳ	ＣＧＬ　ＪＯＵＮＡＬ
対　象	・各委員会の登録メンバー（実務担当者） ・１３７名	・登録メンバーの役員、部長クラス（代表登録者） ・１２５名（オブザーバー、特別メンバー含）
編集方針	・委員会活動内を定期的に把握するための情報発進 ・把握しておくべき行政（団体）関係の動向の情報収集・発信 ※上記の情報発信は速報性を重視する	・委員会活動内を定期的に把握するための情報発進 ・他業界の動向や国際動向を把握するための情報収集・発信 ※業際的視点でわかりやすく解説する
発行頻度	原則１ヶ月１回　※情報発信すべき内容がある場合は都度発行	４ヶ月１回（３回／年）
容　量	Ａ４版１枚程度	Ａ４版４枚程度
媒　体	電子メール	冊子
企画・編集と作成	広報・普及専門委員会、事務局	広報・普及専門委員会、事務局 編集アドバイザー：鈴木邦成氏(文化女子大学)、他
基本構成	1.環境会議の活動状況⇒ホームページ情報の確認 2.行政（団体）機関の施策動向 ・経済産業省、国土交通省、環境省、農林水産省、その他（関係団体含） 3.その他	1.環境会議の活動状況 2.関係機関（団体）、国際、技術開発等の動向 ・関係行政機関の施策動向　・関連団体の活動状況 ・海外の関係機関等の国際動向　・関連技術開発の動向 ⇒上記からテーマを１～２つ程度選択し、掲載する。 3.その他

備考

・ニュースとジャーナルは発行後、ホームページに掲載する(ＰＤＦファイル等)

・関連法規の更新等の情報提供⇒企画運営委員会にて出された要望

参考資料３
2004.9.29

ロジスティクス環境会議

第３回　広報・普及専門委員会　　議事録

Ⅰ．日　時：２００４年８月３１日（火）　１０：００～１２：００

Ⅱ．場　所：東京・港区　芝パークホテル　別館２Ｆ　アゼリア

Ⅲ．出席者：８名

Ⅳ．議　案：
　１）ニュース、ジャーナルについて
　２）シンポジュウムについて
　３）その他

Ⅴ．開　会
定刻、小西委員長より、開会が宣された。

Ⅵ．報　告【資料１】
事務局より、資料１に基づき、各委員会の活動状況の報告が行われた。

Ⅵ．議事の経過
１．議　事
小西委員長の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

１）ニュース、ジャーナルについて【資料１】
事務局より、先般の企画運営委員会にていただいた意見等に基づき再度整理した資料１に基づき、ニュース、ジャーナルの基本的な枠組みについて説明が行われた後、以下のような確認がなされた。

【企画委員会後の主な修正点】
・ニュースの発信は、少なくとも月１回は行い、必要な都度発信する。
・ジャーナルに加えて、ニュースについても、過去の情報はホームページに掲載する。
・委員会登録していないメンバーについては、担当者または代表者宛にニュースを送信する。

２）シンポジュウム等の企画について【資料３】
事務局より、資料に基づき、シンポジュウムの企画案について説明が行われた後、以下のような意見交換がなされた。
【主な意見交換の内容】
（１）参加料について
【委　員】参加費が２千円とあるが、妥当なのか。
【委　員】妥当ではないか。このようなシンポジュムは、企業主催の場合は無料、団体主催の場合は有料のケースが多い。
【委　員】団体主催であっても、啓発・普及を目的とした場合、無料で行っていることもある。
【委　員】有料であっても、それだけの価値の内容を提供できるのかと視点で検討するべきで

はないか。

【事務局】団体主催で無料の場合は、関係省庁がスポンサーになっていることが多い。
他団体の状況を再度確認したうえで確定したい。

（２）企画内容について

【委　員】基調講演については、物流とリンクするような候補で検討すべきではないか。

【委　員】基調講演では、環境活動がコストダウンに結び付くということを参加者に理解してもらうことが大切ある。

【委　員】増井先生の講演では、先ずはCO_2を中心とした環境パフォーマンスを算定してみることの重要性やデータ収集方法の提示、加えてCO_2等環境負荷を低減するために、荷主企業と物流企業がどのようなことに留意すべきなのか、という内容で講演いただきたい。

【委　員】パネルディスカッションについては、ロジスティクスの活動がコストに加えて環境負荷の視点からも評価する必要があり、そのために荷主企業と物流企業がどのようなことを留意して活動すべきなのか、ということが本音で議論を交わせる内容、スピーカの選定をすべきではないか。

【事務局】荷主企業、物流企業として、シンポジュムの場で本音の議論を交わせる人物を選定するのは困難である。広報・普及専門委員会のメンバーでテーマの選定およびスピーカを選定したい。

以上のような意見交換を踏まえ、以下のようにシンポジュムの企画を行うことが確認された。

（１）参加料について
今回の意見交換を踏まえ、事務局にて再検討し、次回委員会で確認する。

（２）基調講演のスピーカについて
環境活動がコストダウンに結び付くこと、物流の視点からも講演いただけるよう、依頼をする際にお願いする。
※スピーカ候補企業：㈱キヤノン、日本アイ･ビー･エム㈱、住友スリーエム㈱

（３）パネルディスカッションについて
・パネリストは広報・普及専門委員会メンバーを中心に構成する。
・司会進行は増井先生に依頼する。

（４）その他
テーマ等については、次回委員会にて検討する。

３）その他
今後のスケジュールについて
次回委員会は、以下のとおり開始することが確認された。
■第４回広報・普及専門委員会
日　時：９月２９日（水）１０－１２時
会　場：ＪＩＬＳ会議室

２．閉　会
以上をもって全ての議事を終了し、小西委員長は閉会を宣した。

以　上